

東アジア古代服飾の図像学と考古学
Iconography and Archaeology of Ornaments of Fashion in Ancient East Asia

東 潮*1+, 市元 塁*2+, 大谷 育恵*3+
Azuma Ushio*1+, Ichimoto Rui*2+, and Otani Ikue*3+

*1 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 徳島市南常三島 1-1

The University of Tokushima Institute of Socio-Arts and Sciences

1-1, Minami jyosanjima-cho Tokushima, Japan

*2 九州国立博物館

Kyushu National Museum,

*3 金沢大学大学院人間社会環境研究科博士後期

Kanazawa University Graduate School Human and Socio-Environmental Studies

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract: It researched the ornament of the fashion materials in ancient east Asian various countries, various race analyzed by the method concerning the study of the iconography and the archeology.

- 1 The ornament of the fashion of Kyoudo(匈奴), Senpi(鮮卑), Sanen(三燕), Koukuri(高句麗)
- 2 The ornament of the fashion of Nihon(日本), Shilagi(新羅), Bokayi(渤海), Tou(唐), Ryou(遼)
- 3 The comparative study of ornaments of Fashion in Russia, China, Mongolia, Taiwan and Vietnam

要旨: 古代中世東アジア諸国・諸民族の服飾資料を図像学的、考古学的方法によって分析し、民族と服飾、衣冠制、身分制、諸民族の交流関係などの問題について調査研究した。

1 匈奴・鮮卑・三燕・高句麗の服飾

2 日本・新羅・渤海・唐・遼の服飾—唐・渤海から遼へ—

3 東アジア近代服飾の比較(ロシア、モンゴル、中国、台湾、ベトナム)

配当決定額

平成 22 年度	950,000 円
平成 23 年度	850,000 円
合計	1,800,000 円

【研究の目的】

古代中世東アジア諸国・諸民族の服飾資料(壁画・装身具等)を画像学的、考古学的方法によって分析する。対象とする地域はモンゴル・中国・朝鮮韓国・日本の東アジアで、時代は魏晋南北朝・隋・唐・遼・高句麗・新羅・統一新羅・渤海・古墳奈良である。

服飾資料を考古学研究方法によって時空的関係のなかでとらえる。壁画にはその時代の思想、習俗、服飾などが表現されている。壁画墓とともに石窟寺院壁画、絵画、陶俑、装身具の考古資料や、民族資料・文献史料を用いて、東アジア諸民族の服飾文化を比較する。

【研究の方法】

三燕・北朝・南朝・隋・唐・高句麗・倭(日本)の服飾資料の集成と分析をおこなう。文献資料の整理とともに、中国・モンゴルなどの東アジア諸地域におけるフィールド調査と博物館などでの資料調査を実施する。

【研究の実施計画】

22・23年度に中国・モンゴルにおける海外調査を実施した。

〔22年度〕

2010年11月15日～11月22日 11/15 大阪—大連—営城子漢墓博物館 11/16 赤峰市博物館—巴林右旗博物館 11/17 巴林右旗(王府、白塔、慶陵、懷陵、祖陵) 11/18 巴林右旗—上都鎮 11/18 上都鎮(上都) 11/20 喀喇沁王府・赤峰博物館 11/21 旅順(旅順博物館) 11/21 大連—大阪

2011年1月8日～1月15日(中国) 01/08 大阪—北京 01/09 北京—烏魯木齊—喀什 01/10 エイティガール清真寺—ユスフ・ハズ・ジャジェブ墓—喀什地区博物館—カラハン廟 01/11 キジル千仏洞(17窟・38窟・48窟ほか) 01/12 ククチャ王宮(亀茲博物館)・亀茲城 01/13 烏魯木齊(新疆博物館) 01/14 烏魯木齊—北京 01/15 北京—大阪

〔23年度〕

2011年7月22日～8月03日 07/22 大阪—ウランバートル 07/23 チンギスハーン像公園・ドーリグ・ナルス遺跡発掘現場(韓国隊) 07/24 バロン城 07/25 ウランバートル 07/26 ドルガドルーホスタイ 07/27 カンターイ 07/28 ハルホリン、エルデニーツ、ホショツアイダム 07/29 ウギーノル 07/30 モル・モドII墓群 07/31 ウランバートル 08/01 ウランバートル(ザナバザアル美術館、国立民族博物館) 08/02 ウランバートル—大阪

2012年2月8日～2月13日 02/09 大阪—台北桃仙空港—台東空港 02/09 台東空港—蘭嶼空港 2/10 蘭嶼島 02/11 蘭嶼空港—台東空港—台北空港 02/12 台北空港 11:30—12:30 関空

【研究の成果】

1 匈奴・鮮卑・三燕・高句麗の服飾

匈奴・鮮卑・三燕・高句麗の装身具(冠飾、飾履、帯鉤、帯金具)の編年と系統関係についてまとめた(大谷2011)。三燕と高句麗の装身具(東2003)については発表する予定である。魏晋、三韓(馬韓・辰韓・弁韓)の帯鉤・帯金具の系統関係についてふれた(東2012)。

モンゴルにおけるノインウラやゴルモドなどの匈奴墓を踏査し、モンゴルアカデミー考古研究所で発掘されたスキタイ墓の遺物の調査をおこなった。匈奴・鮮卑・高句麗・夫餘・韓・三燕の服飾の資料集成もすすめて

いる。

2 日本・新羅・渤海・唐・遼の服飾—唐・渤海から遼へ—

キトラ古墳・高松塚古墳の飛鳥時代の服飾と唐・渤海の服飾と比較した。2000年に遼寧省撫順市施家で高句麗末期から渤海期の墓群が発見された。1号壁画墓の人物群像とその持物は貞孝公主墓(792年)と類似する。渤海壁画墓として貴重な資料で、高松塚古墳、唐壁画の服飾・人物像を比較した。

遼は渤海をほろぼし、建国したが、都城や墓制など渤海の影響がある。今回の調査で、遼の上京臨潢府や慶陵、祖陵などの皇帝陵を踏査することができた。いわゆる「唐宋変革」問題は唐と宋を比較したのであるが、渤海・遼の文化をふくめて考察する。

3 東アジア近代服飾の比較

東アジア近代の諸地域の服飾の比較研究である。東アジアのロシア・サハリン、千島、モンゴル、中国東北・西南地方、台湾、ベトナムの諸地域に「右衽袍」が分布する。19世紀後半から20世紀初にかけての鳥居龍蔵の西南中国、蒙古、アムール川流域、樺太の民族学的調査によって広範に分布することがあきらかにされた。鳥居龍蔵は貴州省朗岱に「明朝の遺民・里民子(黎民子)」が存在することを指摘する(塚田誠之1993)。朗岱人は右衽袍を装着する。漢族の進出問題としてとらえられている。清末の1902年の写真である。明から清にかけて、その領域の拡大、明清との交易、移住などの関係で服飾が伝播した。

アムール川河口の明代の永寧寺が建立されているが、明代の領域拡大、進出である。清朝にはアムール流域からサハリン(樺太)において毛皮交易などをなされた。台湾では、17世紀以来、漢族(華人)が流入する。

そうした明・清時代の異民族・「蛮族」支配、交易、移住などの政治的・経済的な交通関係のなかで、「右衽袍服飾」が伝播したのであろう。今後、遼・金・明・清の壁画など年代の明らかな服飾図像の変遷、服飾の系統関係をあきらかにしたうえで、「右衽袍」の流行の実態をさぐっていく。

文献

- 塚田誠之:「鳥居龍蔵の西南中国調査」, 民族学の先覚者鳥居龍蔵の見たアジア, 国立民族学博物館, pp56-60(1993)
- 東潮:「中国東北地方と高句麗文物の比較研究」, 第27回韓国考古学全国大会-高句麗考古学の諸問題, pp81-91(2003)
- 東潮:「『三国志』東夷伝と天下観」, 邪馬台国—九州と近畿, 大阪府立弥生文化博物館図録, 44, pp.64-71(2010)
- 東潮:「キトラ・高松塚壁画をめぐる古代の歴史環境—唐・新羅・日本の国際環境—」, 慶北大学校考古人類学科30周年記念考古学論叢, 同刊行委員会, pp.1149-1257(2011)
- 東潮:「鳥居龍蔵と東アジアの近代—満蒙調査と張作霖事件・ノモンハン戦争—」, 鳥居龍蔵研究, 創刊号, 鳥居龍蔵を語る会, pp.183-194(2011)
- 東潮:「蛇行状鉄器再考」, 勝部明生先生喜寿記念論文集, pp.216-225(2011)
- 東潮:「辰韓・濊・秦韓・新羅・統一新羅」, 北東アジアの歴史と文化, pp.149-163, 北海道大学出版会(2011)
- 東潮:高句麗壁画と東アジア, 学生社(2011)

東潮:邪馬台国の考古学—魏志東夷伝が語る世界—, 角川書店 (2012)

市元昱:誕生中国文明特別展図録, 東京国立博物館・九州国立博物館 (2011)

大谷育恵:「三燕金属製装身具の研究」, 金沢大学考古学紀要, 32号, pp87-105 (2011)

大谷育恵訳:「モンゴル モリン・トルゴイ匈奴墓」, 「韓-蒙共同学術報告書, 第2冊, 金大考古, 70号, pp.1-27 (2011)



図1 高句麗・新羅・日本・唐の服飾



施家1号墓(遼寧省撫順)



貞孝公主墓(吉林省和龍)

図2 渤海の服飾



図3 右衽袍服の分布